

「サーチャー応援座談会

～2013年のトピックスとサーチャーのDO、サーチャーへのDOを語る～」

はじめに

司会：皆様、本日は大変お忙しい中、座談会にご参加いただき、ありがとうございます。初めての企画であり、座談会にお越しいただいた3人の方々の楽しい思い出になる特別なイベントにしたいと思います。よろしくお願いします。

本日の座談会は様々な立場の方のお役にたてればと思い「Patent World by Japio」で公開します。そのため読み手は不特定多数となりますが、ここに示すように、「読み手」を検索・調査を業務としている方で、サーチレベルを上げたいと思っている人と仮定しました。

特に、比較的規模の小さい企業などで、独学で自己研鑽に苦勞しておられる初級から中級程度で方に参考にしていただけるような座談会にしたいと思います。

座談会は3部構成とし、第1部は、自己紹介に続いて、今年

(2013年)の特許調査のトピックスには何があるのか。第2部は、サーチャー自身、ベテランのサーチャーである皆様が「自身のDO」として日常行なっていること。第3部は、「サーチャーへのDO」として、良いサーチャーを育てるにはどうしたらよいかということテーマとして3人にお話を聞きたいと思います。

1. 自己紹介

司会：最初に、自己紹介していただきます。

中村：こんにちは。旭化成株式会社 新事業本部 知的財産部 技術情報グループ長の中村栄と申します。私は初任配置が大阪の研究所で、知的財産部には平成元年に転属致しました。最初の約10年は知財のリエゾン業務といわれる出願や研究者からの知財の相談を受ける業務に携わりました。現在所属している技術情報グループは、全社の情報調査レベルを引き上げようとの趣旨で1998年10月、各地の情報調査組織を知的財産部の中に一極集

構成

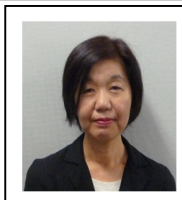
聞き手 対象読者	検索調査を行う方で、サーチのレベルを上げたいと思っている人(広義のサーチャー)
目的	初級から中級で、独学で自己研鑽に苦勞して居られる広義のサーチャーに必要な贈り物的なお話をPatent World by Japioから提供する
第一部	2013年の特許調査のトピックスには何があるのか
第二部	サーチャー自身(狭義)のDOで日常心がけていること
第三部	周りからのDO(より良いサーチャー(狭義)を育てるにはどうした良いか

中的に集め、組織したものです。私はちょうど組織の準備段階の時期に転属し、組織のミッション策定、人員確保に至るまで、その立ち上げを担当しました。2006年から現職のグループ長を拝命し、今日に至ります。

最初にグループのミッションについて紹介します。私どもの会社では伝統的に技術情報調査をしっかりとやっていこうという文化が根付いています。昔から「技術情報調査は知財管理の要諦」という言葉が代々受け継がれています。このスローガンのもと、グループには3つのミッションがあります。

中村 栄氏略歴

旭化成(株)新事業本部 知的財産部
技術情報グループ グループ長



- ・知的財産部に1998年に組織された旭化成グループ全体の技術情報調査機能を有するセクションの責任者に就任。
- ・情報調査実施だけではなく、研究者に対する情報調査教育、情報調査結果の活用サポート等、情報調査に関する幅広いコンサルティングの役割を担う部門を率いてきた。
- ・2006～2008年：京都大学大学院非常勤講師、東京農工大学大学院非常勤講師、
- 2010～：横浜市立大客員講師、その他講演多数

1つめのミッションは、「全社に必要な、特に知財に関する重要調査を確実に行うこと。」例えば、事業開始に直結する侵害防止調査や、出願に費用のかかる外国出願をする前の先行技術調査など、知財の重要調査を確実に実施し、高品質な検索のサービスを研究者に提供することです。通常、情報調査のセクションはこのミッションが要になります。私どもグループは、他にもう2つミッションがあります。

サーチャー側だけが高いレベルを持っていても調査はうまく回りません。調査した結果を受け取る側の研究者もある程度の調査レベルを有していないと調査結果の理解や利用がうまく回っていきません。

そこで2番目のミッションは「きめ細やかな情報調査教育を実施すること」です。調査の考えから始まり、研究者自らが検索するのに使い勝手の良いシステムを提供したり使い方の指導等々、調査教育をしっかりとやっていくということです。

技術情報グループのミッション

技術情報調査は知財管理の要諦！

< 中長期ミッション >

1. **知財重要調査**を中心とした高品質な検索の実施
2. 情報調査教育の実施(IRISシステムの提供・指導)
3. 調査結果の有効活用サポート(戦略DB(SDB)の構築活用)
1～3を「**有機一体的に**」遂行することによって旭化成G研究者の情報調査レベルを向上させる

3 番目のミッションは、「調査した結果の活用方法をしっかりサポートしていく」です。自分たちの開発テーマに合わせた情報をきちんと自分たちのところで蓄積し、それらに情報を引き出しやすいようにフラグを付けて管理する SDB(戦略データベース、Strategic DataBase)を構築し、これをしっかり活用していくことを指導しています。この SDB に関しては Japio YEAR BOOK2007 でも紹介しています。

これら 3 つのミッション全てを有機一体的に遂行し活用すれば、必要な新たな調査が生まれ、それらが適切に活用される、という良い循環が形成されます。この循環をうまく回していくことにより、当社の研究者の情報調査レベルを向上させるということが我々のミッションです。それをお手伝いするのがサーチャーの役目となっています。

司会：旭化成の 3 つのミッションはすごいですね。IP 文化がすごくしっかりしていると感じます。

中村：上位の職責の人達が従前から調査は自分たちでやっていた、という自負があるようで、情報調査に対する理解が経営層に浸透しております、そういう意味で組織にとっては非常に恵まれている環境だと思います。

司会：ありがとうございました。それでは次に独立の調査会社を起業した立場で酒井さん、自己紹介してください。

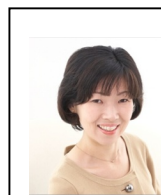
酒井：スマートワークス株式会社代表の酒井美里と申します。1991 年に大学を出てセイコーエプソンに入社しました。最初から知財部配属でそれから今まで、知財業務だけでやってきます。出願権利化業務を何年か行なった後、調査部門に移りました。

エプソンの調査子会社で出願権利化業務から代行検索一本で何年か行なってい

く中で、途中からは検索と社内教育と二つの業務を担当しました。その後、そのときの経験を生かして独立開業したわけですが、代行検索、調査系の講習会の企画・運営を仕事に

酒井 美里氏略歴

スマートワークス(株) 代表



- ・セイコーエプソン(株)知的財産本部入社業務に従事。その後エプソンインテリジェンス出向。特許調査、社内教育に従事。
- ・2005 年 セイコーエプソン(株)退社。スマートワークス(株)設立。
- ・2007 年 特許検索競技大会 優勝。
- ・現在は代行検索 / 調査教育に従事。
- ・近著： 特許調査入門(発明推進協会)

しています。

心に残っていること、ポイントになる部分をご紹介します。

特許技術者のローテーションは、出願権利化を一定期間経験させ、ある程度できるようになったら、渉外系、いわゆるライセンス業務などを担当し、また出願権利化に戻るのが、一般的な育成環境だと思います。

ですので、調査子会社において、1つは出願前調査に注力する、2つ目は訴訟やライセンス活動の対応、侵害予防調査が大きな業務の柱になっていたように思います。私は訴訟対応チームで経験を積みました。会社としては、新しいことにどんどんチャレンジしようという社風もあったと思いますので、データベースなども新しい製品で、検索環境的にも非常に恵まれた中で経験を積ませてもらえたと思います。



(座談会風景 1 4角に囲んで2時間の座談会)

その後、8年前に独立開業することになりましたが、その時も今ははっきりしたミッションというものを持っていません。私のできることでお役に立てることがあって、「こういうのをやってもらえない?」と言われて、できることならそれにお応えしていこうというスタンスでいたら、たまたま前職のときと同じようなところに落ちてしまいました。

司会：ありがとうございました。酒井さんというと私は最初から調査だけをしておられたのかなと思ったら、前職で知財業務をされ、その中で特許調査をしておられたことを、今日初めて知りました。ありがとうございます。

それでは最後に清水さん、自己紹介をお願いします。

清水：日本特許情報機構の清水美都子です。私はずっと Japio に勤務しておりますので、全く出願や訴訟など手続き面の経験はありません。

最初に配属されたのは抄録の作成や発行をしている部署でした。その後、特許情報検索サービスを提供する部署に異動になりました。当時、日本特許情報機構(旧日本特許情報

センター (Japatic)) は、特許検索サービス提供しており、そのヘルプデスクと講習会を担当することになりました。特許サーチをしている方から「これを調べるにはどうしたらよいか」とか、調査結果について「どうしてこうなるのか」という質問にお答えしながら特許サーチの疑似体験をするうちに特許検索に興味を持つようになりました。

その後、IPDL のヘルプデスクを担当するようになりました。ヘルプデスクでは、年齢層も質問の内容も広がりました。そうした中で、日本の特許法や諸外国の知財制度、Web サイトのサービス等知識も広がっていきました。

現在は Japio の中小企業支援事業として先行技術調査の支援サービスや「Patent world by Japio」という、特許について知りたい人のためのポータルサイトの運営などを担当しております。

「Patent world by Japio」は、Japio の中小企業支援事業のご紹介の他、特許に関するニュースや特許や特許情報の調査に興味のある方に対し、様々な情報を提供する入口を目指しています。

司会：ありがとうございます。

清水さんはヘルプデスクを非常に早い時期からしておられたのですね。

清水：ヘルプデスクの経験が、仕事に一番生きていると思います。

司会：最後になりましたが、司会を担当します桐山勉といたします。

以前、帝人に勤めていまして、

1994年5月に帝人知的財産部の情報グループに配属になり、それ以降、特許調査の担当を

清水 美都子氏略歴

一般財団法人日本特許情報機構(Japio)



- ・抄録の発行を担当後、特許情報検索サービスの普及研修活動に従事。
- ・現在、Japio の中小企業支援事業、特許ポータルサイト Patent world by Japio の運営などを担当。
- ・知財協研修会講師、INFOSTA 諮問委員。

桐山 勉氏の略歴

一般財団法人日本特許情報機構(Japio)
特許情報研究所、客員研究員(非常勤)



- ・1973年4月帝人(株)入社
- ・994年5月帝人知的財産部に研究所から転属。以降、特許情報調査に従事。
- ・2006年2月帝人(株)を定年退職、2009年2月に帝人のシニア社員も終了。
- ・2006年4月以降; Japio 研究所、非常勤。
- ・2011年以降 IPI-Award Selection Board

やってまいりました。2006年に退職し、その後、Japioに客員研究員として勤めています。
今日のご活躍の皆さん3人から貴重なお話、アドバイスが聞ける、教わるということで大
変楽しみにしております。

それでは続きまして本論に入りたいと思います。